

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
「人間性豊かで実践力のある児童の育成」 めざす児童像 ・たくましく(素直で誠実な子) ・かしこく(自ら考え行動する子) ・たくましく(心と体を鍛える子)	○人間力あふれる児童を育成する。 ①自ら学び仲間と高め合う子 ②他者を大切にできる子 ③何事にも挑戦しやり抜く子 ○「自然と伝承文化の豊かなふるさと高田」に根ざした教育を展開する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A算数Aは全国平均より高い。 ○国語では資料にもとづき、目的に応じた内容を選択することに課題がある。 ○条件に合わせて書いたり、説明したりすることに課題がある。 ○算数Bでは後半の問題に無回答率が多くなっている。 県 ○学年が下がるほど、基礎基本が定着していない。 ○条件や目的に合わせて書くことの正答率が低い。 ○数直線の意味や分数の意味が正しく理解できていない割合が高い。 ○漢字辞典の使い方など、使っていない既習事項は正答率が低い。	【学習状況調査の結果】 ○テレビの視聴時間やゲームをしている時間は少ないが個人差が大きい。 ○平日の家庭学習時間が全国平均より低い。 ○読書は楽しいと感じている割合は高いが、いろいろな本が読めていない。 ○学校のきまりを守ろうとし、最後まで頑張ろうとしている。 ○授業の振り返りをよくしているという割合が高い。 ○自分の考えを表現しようと努力している。

成果	課題
○6年国語A、算数Aともに県平均を上回った。基礎基本の定着に向けて学校全体で全校漢字テスト、どんどんチャレンジ、放課後補充プリントなどに取り組んできた成果である。 ○毎日の授業の中で「まとめ」「振り返り」を書いたり、朝学習でミニ作文や視写に取り組んだりすることで表現する力が伸び、記述問題の無回答率が減った。 ○授業改善により、学習課題に対して児童が自力解決を目指したり、相互で学び合おうとしたりする割合が増えている。	○学年が下がるに従って正答率が低くなっており、その学年で身に付けておくべき基礎基本の内容が定着していない。 ○6年国語の活用型の問題の正答率が低かった。目的や意図に応じて考えたり、書いたりすることに課題がある。 ○6年算数の活用型の問題の無回答率が多かった。読解力が不十分で、問題を解くのに時間がかかっていると考えられる。 ○学年相応の家庭学習時間が達成できていない割合が高く、習熟、応用等が図られていない。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
漢字や計算などの基礎基本の内容を定着させる。	2月末	正答率80%	・データベースの問題等を利用し、補充学習・家庭学習に取り組む。補充学習は実施時期、曜日、学年を決め、1回2枚のプリントに取り組ませる。 ・速く書く活動も朝の学習等に取り入れる。	計算と漢字を中心に取り組みある程度の成果があったが、以前から苦手な部分は定着が不十分(小数・図形・ローマ字等)	B	計算は補充プリント等で基礎基本の定着に取り組むことができた。漢字については、学期末に全校漢字テストに取り組み定着が図れた。	A	・定着させるために、既習事項の復習ができるよう、補充学習等の年間計画をきちんと立て、取り組む必要がある。また時の暗唱等に全校で取り組む。
条件や目的に応じた表現ができるようにする。	2月末	条件を満たした表現ができる70%	・データベースの問題や定着確認テストを利用し、週末の課題等にして取り組む。 ・算数で式に合わせた問題作りに取り組ませる。 ・まとめをする時、条件、書き方、字数等を示してそれに沿って書かせるようにする。	データベースの問題等を利用してきたが、問題文の意図にそって書くことができていない。	B	考えを文章にまとめたり、きちんと発表する力については、きちんと内容を眺み取ることがもう少しできていない。	B	条件を満たして書く力をつけられるように週末プリント等に計画的に取り組む。
家庭学習の時間を増やし、内容を充実していく。	12月末	各学年の目標達成80%	・自主学習ノートの内容の交流を行い、家庭学習の内容を充実させていく。 ・高田っ子カードで、家庭と共に学年に応じた学習時間の達成を目指す。	学習内容の充実を力を入れることができた。めあてを作り家庭学習をさせたが高学年になるほど目標に達しない児童が多い。	B	学習内容や取り組み時間に個人差があり、高学年になるほど目標に達しない割合が多く達成率は67%である。	B	学習内容の交流を行い、めあてを持たせるなど意欲をもって取り組める工夫を行う。

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○「家庭教育のすすめ」にもとづく実践交流。 ○各教科カリキュラムに基づく実践交流。 ○時を守り 場をきれいにし 礼をつくす。	○「高田っ子カード」の結果をPTA新聞に掲載し、家庭学習の時間の確保と、メディアの適切な利用、あいさつの徹底を呼び掛ける。